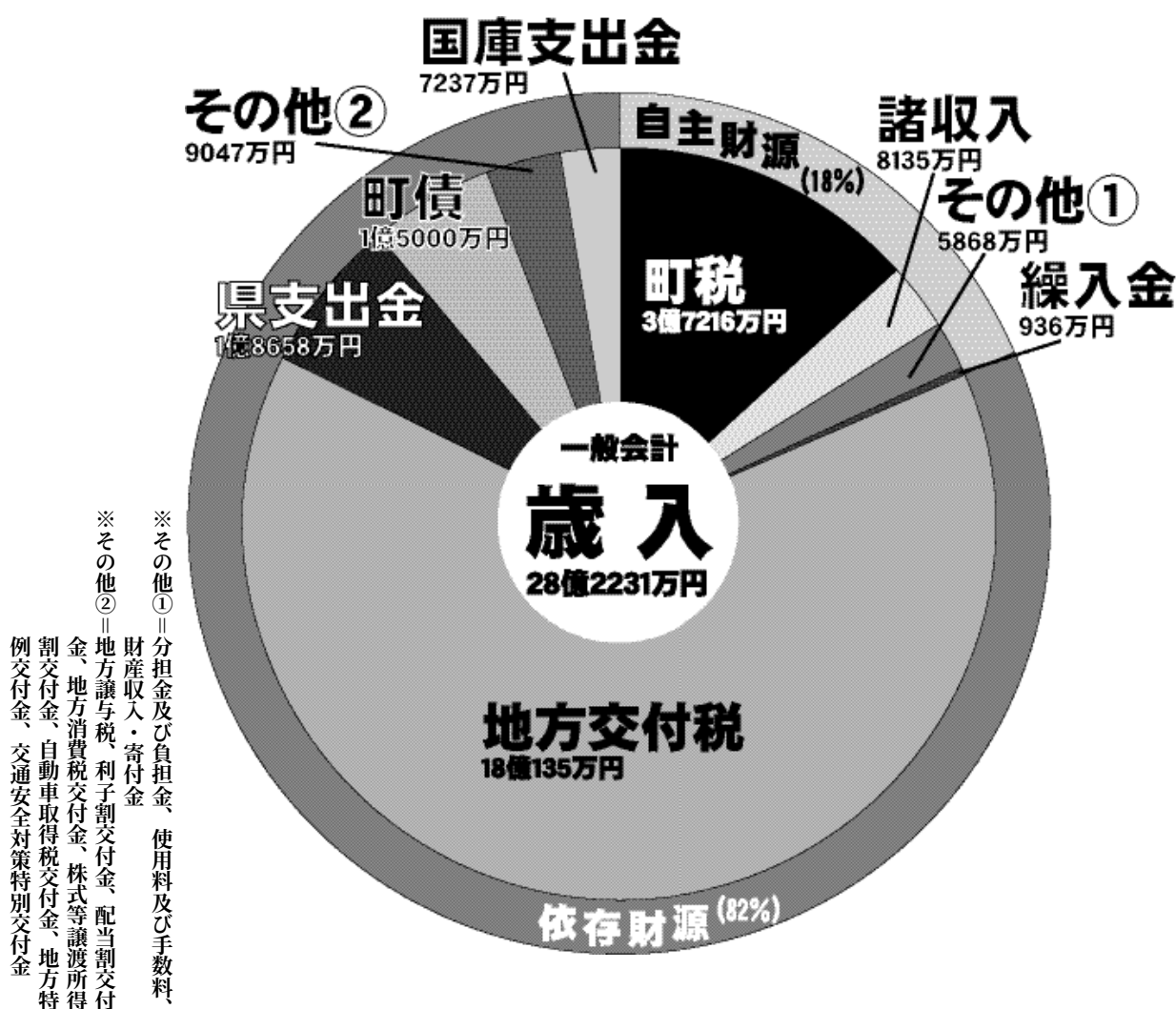


3 1 万円

3月に開かれた、第2回町議会定例会で、
まちの平成21年度当初予算が承認されました。
一般会計の予算規模は、総額28億2231万円。
昨年度当初に比べると約0.7%増えていますが、
ほぼ同規模の予算になっています。
今年度の一般会計と特別会計の当初予算について
お知らせします。



一般会計 歳入

8割を越す依存財源

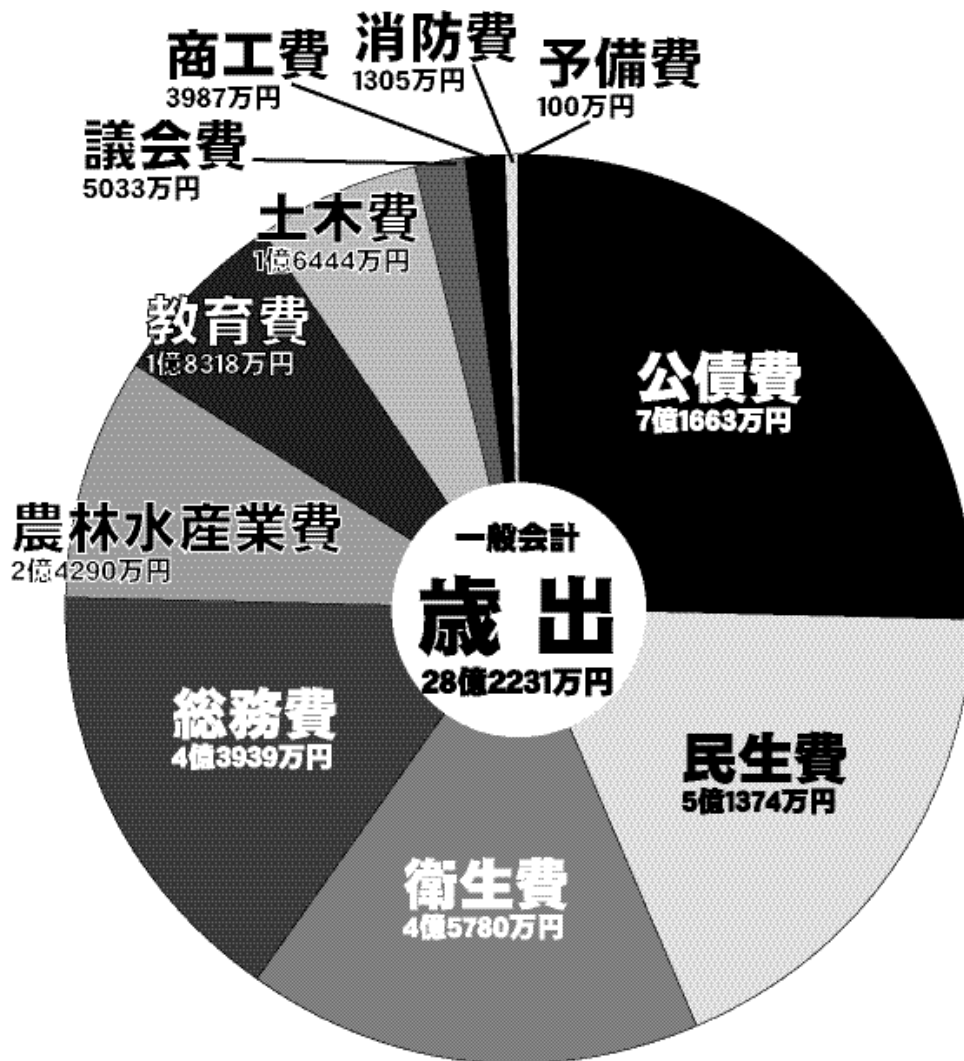
まちに入ってくるお金(歳入)は、町税や使用料など、自主的に収入にできる自主財源と、地方交付税や国・県からの支出金などの依存財源の2つに大きく分けられます。

今年度の一般会計当初予算では、自主財源が約5億2155万円(全体の約18%)、依存財源が約23億76万円(全体の約82%)と、依存財源が8割を超えています。

地方交付税が18億円

歳入の主な内訳を、割合の大きい順から見ると、まず、国から交付される地方交付税が約18億135万円、歳入全体の約64%を占めています。次に、町税が約3億7216万円(全体の約13%)、事業に伴って入る県支出金が約1億8658万円(全体の約7%)、そして、町債が1億5000万円(全体の約5%)という順になっています。

平成21年度当初予算 一般会計 28億22



一般会計 歳出

借金返済が4分の1

まちが支払うお金である歳出を、割合の大きい順で見ると、まちが事業のために借り入れた町債の返済金である公債費が一番大きな割合を占めており、総額約7億1663万円で、歳出全体のおよそ4分の1を占めています。

続いて、主に福祉事業や健康づくり対策、保育所運営などに使われる民生費が、約5億1374万円（全体の約18%）、病院組合負担金、予防接種や環境衛生、簡易水道線出金などに使われる衛生費が、約4億5780万円（全体の約16%）となっています。

さらに、西部広域行政管理組合の負担金やバス運行対策費、選挙経費などの総務費が、約4億3939万円（全体の約16%）、農業振興や森林整備などに使われる農林水産業費が、約2億4290万円（全体の約9%）の順となっています。